

『Smart EDC システム』の動作環境について

以下に『Smart EDC システム』の動作環境を記載致します。

【サーバ環境】

	内容
OS	Linux (CentOS 6.4 検証済)
Web サーバ	Apache 2 以降
Web アプリケーション	Tomcat 6.0
データベース	MySQL 5.1
Java	JDK 1.7.0_45 以降 (JDK1.7.0_45 検証済)

【クライアント環境】

	内容
PC	Google Chrome (バージョン 48 以降)
タブレット端末	iPad (iOS 6 以降)

【インストール前提条件】

- MySQL の文字コードが UTF-8 であること
設定方法：my.cnf の[mysqld]セクションに以下の記述を追加します。

```
character-set-server=utf8
```

- MySQL でテーブル名の大文字／小文字識別を行わないこと
設定方法：my.cnf の[mysqld]セクションに以下の記述を追加します。

```
lower_case_table_names=1
```

- MySQL の group_concat の結果の最大長が設定されていること
※設定を行わないと、CSV 出力で 1024 バイトを超える文字がカットされます。
設定方法：my.cnf の[mysqld]セクションに以下の記述を追加します。

```
group_concat_max_len=16384
```

- 外部ホストからの MySQL 接続が許可されていること
- apache と tomcat が連携されていること (mod_proxy_ajp 等で連携済みであること)

第 1 章. Smart EDC システムのインストール

Smart EDC システムのインストールについて、以下に記載します。

※ディレクトリ作成、ファイルコピー等が行われるため、実行は root 権限で行うようにして下さい。

- ① ダウンロードした SmartEDC_Installer.zip を解凍します。

```
[root@tedc_srv home]# unzip SmartEDC_Installer.zip
```

- ② 展開された「SmartEDC_Installer」ディレクトリに移動します。

```
[root@tedc_srv home]# cd SmartEDC_Installer  
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]#
```

- ③ 「SmartEDC_Installer」ディレクトリの内容を確認します。

以下の 3 ファイル、3 ディレクトリで構成されています。

```
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]# ls -ltr  
合計 24  
-rw-r--r--. 1 root root 1928 7月 22 11:07 2014 setup01.sh  
-rw-r--r--. 1 root root 589 7月 22 11:08 2014 setup02.sh  
-rw-r--r--. 1 root root 1495 7月 22 11:09 2014 setup03.sh  
drwxr-xr-x. 2 root root 4096 7月 22 11:58 2014 database  
drwxr-xr-x. 2 root root 4096 7月 22 11:58 2014 environment  
drwxr-xr-x. 10 root root 4096 7月 22 11:58 2014 smartEDC_system
```

1-1. MySQL にデータベース：smartedc を作成する

以下の手順にて MySQL にデータベース：smartedc を作成します。

- (1) 「SmartEDC_Installer」のシェルスクリプト「setup01.sh」を実行します。

```
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]# bash setup01.sh
```

- (2) MySQL のユーザ ID (root など管理者権限を持つユーザ) を入力します。

```
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]# bash setup01.sh
MySQL ユーザ IDを入力して下さい > root
```

- (3) 上記(2)で入力したユーザ ID のパスワードを入力します。

※入力したパスワードは表示されませんので注意して下さい。

```
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]# bash setup01.sh
MySQL ユーザ IDを入力して下さい > root
MySQL パスワードを入力して下さい > 
```

- (4) 作成するデータベース名を入力します。

※入力を省略した場合、データベース名「smartedc」で作成が実行されます。

```
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]# bash setup01.sh
MySQL ユーザ IDを入力して下さい > root
MySQL パスワードを入力して下さい >
作成するデータベース名を入力して下さい。
(省略時:smartedc > 
```

- (5) データベースの作成が実行されます。

完了すると「MySQL にデータベース：smartedc を作成しました。」が表示されます。

```
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]# bash setup01.sh
MySQL ユーザ IDを入力して下さい > root
MySQL パスワードを入力して下さい >
作成するデータベース名を入力して下さい。
(省略時:smartedc >
データベースを作成中です。しばらくお待ちください。
MySQLにデータベース：smartedcを作成しました。
```

以上で、データベースの作成は完了です。

作成したデータベースに外部ホストからの接続を許可するよう設定を行ってください。

※セキュリティ上の観点から smartedc 専用の管理ユーザの作成を推奨いたします。

1-2. Web アプリケーションの DB 接続先情報を設定する

以下の手順で Web アプリケーションからデータベース：smartedc に接続するための情報を設定します。

- (1) 「SmartEDC_Installer」のシェルスクリプト：「setup02.sh」を実行します。

```
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]# bash setup02.sh
```

- (2) データベースサーバの IP アドレスを入力します。

```
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]# bash setup02.sh
DBサーバのIPアドレスを入力して下さい > 192.168.1.xxx
```

- (3) 接続するデータベース名を入力します。1-1. (4)と同じ名前にして下さい。

※入力を省略した場合、接続するデータベース名「smartedc」で設定されます。

```
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]# bash setup02.sh
DBサーバのIPアドレスを入力して下さい > 192.168.1.xxx
接続するデータベース名を入力して下さい。
(省略時:smartedc > █
```

- (4) 接続するデータベースの管理者権限を持つユーザ ID を入力します。

```
DBサーバのIPアドレスを入力して下さい > 192.168.1.xxx
接続するデータベース名を入力して下さい。
(省略時:smartedc >
データベース: smartedoのユーザーIDを入力して下さい > █
```

- (5) 上記(4)で入力したユーザ ID のパスワードを入力します。

※入力したパスワードは表示されませんので注意して下さい。

```
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]# bash setup02.sh
DBサーバのIPアドレスを入力して下さい > 192.168.1.xxx
接続するデータベース名を入力して下さい。
(省略時:smartedc >
データベース: smartedoのユーザーIDを入力して下さい > root
データベース: smartedoのパスワードを入力して下さい > █
```

- (6) DB 接続情報が作成されます。

完了すると「DB 接続先情報を設定しました。」が表示されます。

```
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]# bash setup02.sh
DBサーバのIPアドレスを入力して下さい > 192.168.1.xxx
接続するデータベース名を入力して下さい。
(省略時:smartedc >
データベース: smartedoのユーザーIDを入力して下さい > root
データベース: smartedoのパスワードを入力して下さい >
Using default encryption keys...
DB接続先情報を設定しました。
```

以上で、DB 接続先情報の設定は完了です。

1-3. WEB アプリケーション：smartEDC_system を設定する

以下の手順で WEB アプリケーション：smartEDC_system を Tomcat に設定します。

- (1) 「SmartEDC_Installer」のシェルスクリプト：「setup03.sh」を実行します。

```
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]# bash setup03.sh
```

- (2) WEB アプリケーションを設定する Tomcat ディレクトリを入力します。

※入力を省略した場合、「/usr/share/tomcat6/webapps」に設定されます。

```
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]# bash setup03.sh
Webアプリケーションを格納するtomcatのディレクトリを入力して下さい。
(省略時:/usr/share/tomcat6/webapps) > █
```

- (3) WEB アプリケーションを入力します。

※入力を省略した場合、「smartEDC_system」に設定されます。

```
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]# bash setup03.sh
Webアプリケーションを格納するtomcatのディレクトリを入力して下さい。
(省略時:/usr/share/tomcat6/webapps) >
Webアプリケーション名を入力して下さい。
(省略時:smartEDC_system > █
```

- (4) SSL 対応／SSL 対応なしの選択を行います。

SSL 対応の WEB アプリケーションを設定する場合は、“y”、

SSL 対応なしの WEB アプリケーションを設定する場合は、“n” を入力します。

```
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]# bash setup03.sh
Webアプリケーションを格納するtomcatのディレクトリを入力して下さい。
(省略時:/usr/share/tomcat6/webapps) >
Webアプリケーション名を入力して下さい。
(省略時:smartEDC_system >
SSL対応版を設定しますか。y/n > y
```

- (5) 上記(2)で入力した Tomcat ディレクトリに(3)で入力した WEB アプリケーションの作成が行われます。

しばらくすると、SmartEDC で作成した CSV の格納ディレクトリ：EDCCSV を home ディレクトリに作成するかの確認がありますので、選択を行います。

※”N”を選択した場合、第2章「2-2. CSV 格納ディレクトリの設定」を参照し、格納先を設定するようにして下さい。

```
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]# bash setup03.sh
Webアプリケーションを格納するtomcatのディレクトリを入力して下さい。
(省略時:/usr/share/tomcat6/webapps) >
Webアプリケーション名を入力して下さい。
(省略時:smartEDC_system >
SSL対応版を設定しますか。y/n > y
Webアプリケーションを設定中です。しばらくお待ちください。
homeディレクトリにCSV格納ディレクトリ：EDCCSVを作成しますか。y/n >
```

- (6) 完了すると「Tomcat に WEB アプリケーション：smartEDC_system を設定しました。」が表示されます。

```
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]# bash setup03.sh
Webアプリケーションを格納するtomcatのディレクトリを入力して下さい。
(省略時:/usr/share/tomcat6/webapps) >
Webアプリケーション名を入力して下さい。
(省略時:smartEDC_system >
SSL対応版を設定しますか。y/n > y
Webアプリケーションを設定中です。しばらくお待ちください。
homeディレクトリにCSV格納ディレクトリ：EDCCSVを作成しますか。y/n > y
TomcatにWebアプリケーション：smartEDC_systemを設定しました。
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]#
```

- (7) Apache／Tomcat 連携に smartEDC_system を追加します。

例) 「mod_proxy_ajp」 で連携している場合、設定ファイルに以下の内容を追加します。

```
ProxyPass /smartEDC_system/ ajp://localhost:8009/smartEDC_system/
```

- (8) Tomcat／Apache を再起動し、設定を反映します。

```
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]# /etc/rc.d/init.d/tomcat6 restart
Stopping tomcat6: [ OK ]
Starting tomcat6: [ OK ]
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]# /etc/rc.d/init.d/httpd restart
httpd を停止中: [ OK ]
httpd を起動中: [ OK ]
[root@tedc_srv SmartEDC_Installer]#
```

以上で、WEB アプリケーションの作成は完了です。

1-4. smartEDC_system を起動 する

(1) Smart EDC システム（管理者機能）起動確認

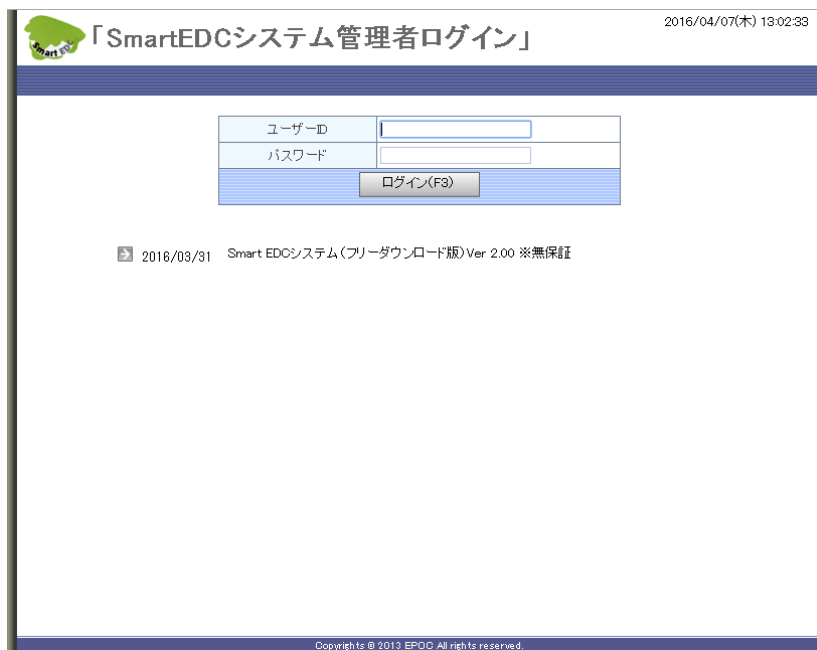
http://サーバー名/smartEDC_system/servlet/a101_wp01_login

(SSL 対応版の場合、https で起動) にアクセスし、

「Smart EDC システム管理者ログイン」画面が表示されることを確認します。

※インストール時の初期登録ユーザ：admin/admin でログイン可能です。

(ログイン後、ユーザマスタメンテナンスでパスワードを変更するようにして下さい)



2016/04/07(木) 13:02:33

「SmartEDCシステム管理者ログイン」

ユーザーID	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/>
<input type="button" value="ログイン(F9)"/>	

2016/03/31 Smart EDCシステム(フリーダウンロード版) Ver 2.00 ※無保証

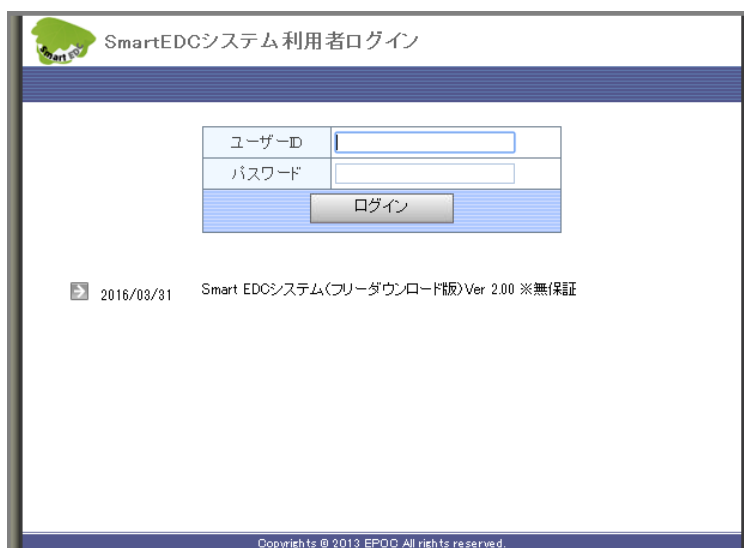
Copyrights © 2013 EPOC All rights reserved.

(2) Smart EDC システム（利用者）起動確認

http://サーバー名/smartEDC_system/servlet/b710_wp01_login

(SSL 対応版の場合、https で起動) にアクセスし、

「Smart EDC システム利用者ログイン」画面が表示されることを確認します。



SmartEDCシステム利用者ログイン

ユーザーID	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/>
<input type="button" value="ログイン"/>	

2016/03/31 Smart EDCシステム(フリーダウンロード版) Ver 2.00 ※無保証

Copyrights © 2013 EPOC All rights reserved.

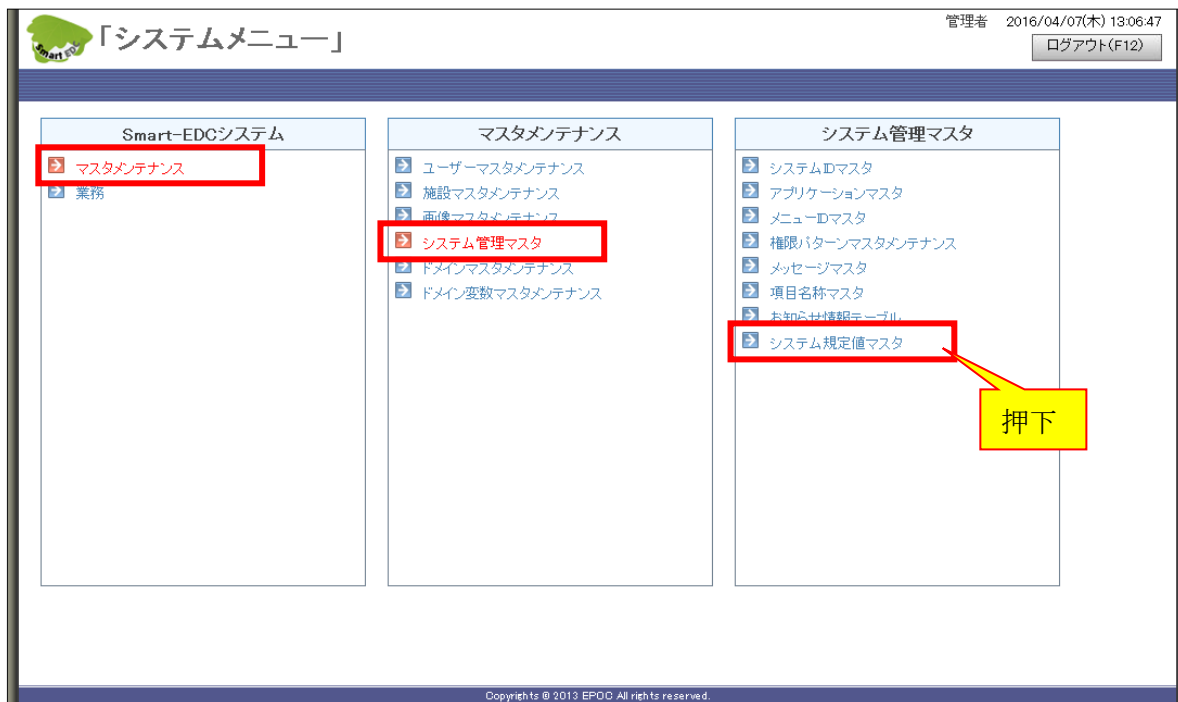
第2章. Smart EDC システムの各種設定

Smart EDC システムの管理者機能を使用して、以下の設定を行います。

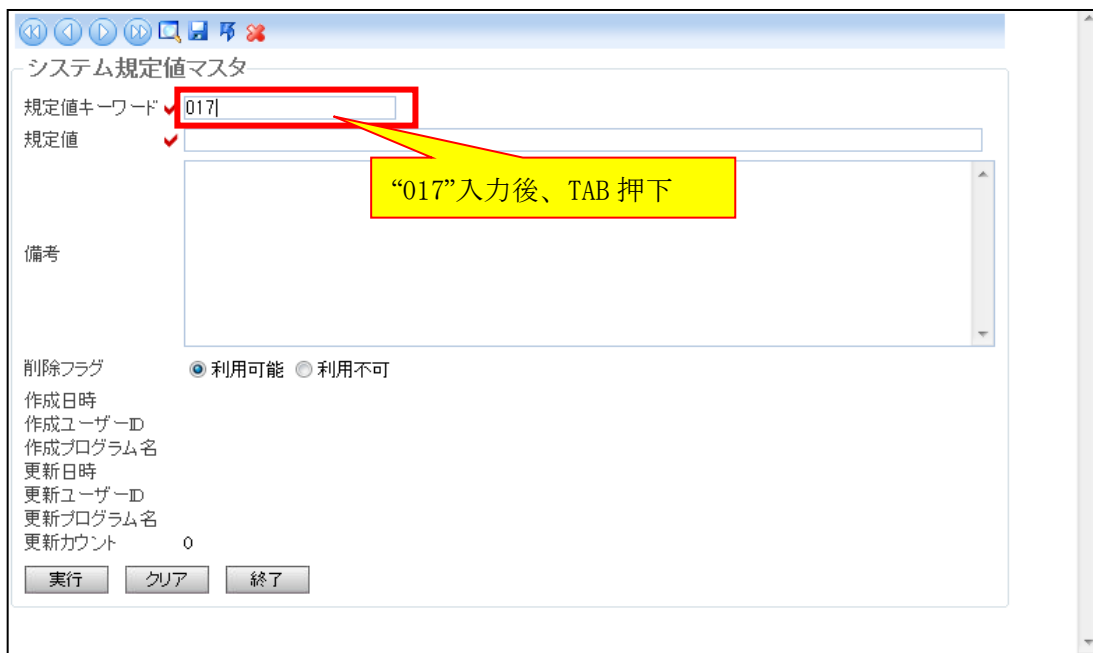
2-1. NetCommons との連携

NetCommons と連携し、「ユーザー一覧取込」「患者・適格性情報取込」を行う場合、以下の設定を行います。

- (1) 管理者機能「メインメニュー」－「マスタメンテナンス」－「システム規定値マスタ」を起動します。



- (2) 「規定値キーワード」に”017”を入力し、TAB キーを押下します。



- (3) NetCommons サーバの設定データが表示されるので、
「規定値」に連携する NetCommons サーバの URL (Http://を除く) を入力し、「実行」ボタンを押下します。

システム規定値マスタ

規定値キーワード ✓ 017

規定値 ✓ www.xxxx-xxx.net

NetCommonsサーバ

備考

削除フラグ ☒ 利用可能 ☐ 利用不可

作成日時 2014/06/30 00:00:00

作成ユーザーID admin

作成プログラム名 system

更新日時 2014/07/07 16:46:00

更新ユーザーID admin

更新プログラム名 system

更新カウント 2

実行 クリア 終了

①連携する netCommons の URL を入力

②押下

- (4) 更新完了し「データが更新されました」のメッセージが表示されたら、
「終了」ボタンを押下し、システム規定値マスタメンテを終了します。

システム規定値マスタ

■ データが更新されました

規定値キーワード ✓ 017

規定値 ✓ www.xxxx-xxx.net

NetCommonsサーバ

備考

削除フラグ ☒ 利用可能 ☐ 利用不可

作成日時 2014/06/30 00:00:00

作成ユーザーID admin

作成プログラム名 system

更新日時 2014/07/07 16:46:00

更新ユーザーID admin

更新プログラム名 system

更新カウント 2

実行 クリア 終了

押下

以上で、NetCommons との連携の設定は完了です。

2-2. CSV 格納ディレクトリの設定

SmartEDC で作成される CSV の格納ディレクトリを独自に設定する場合、以下の手順で行います。

- (1) WEB サーバに CSV 格納ディレクトリを作成します。

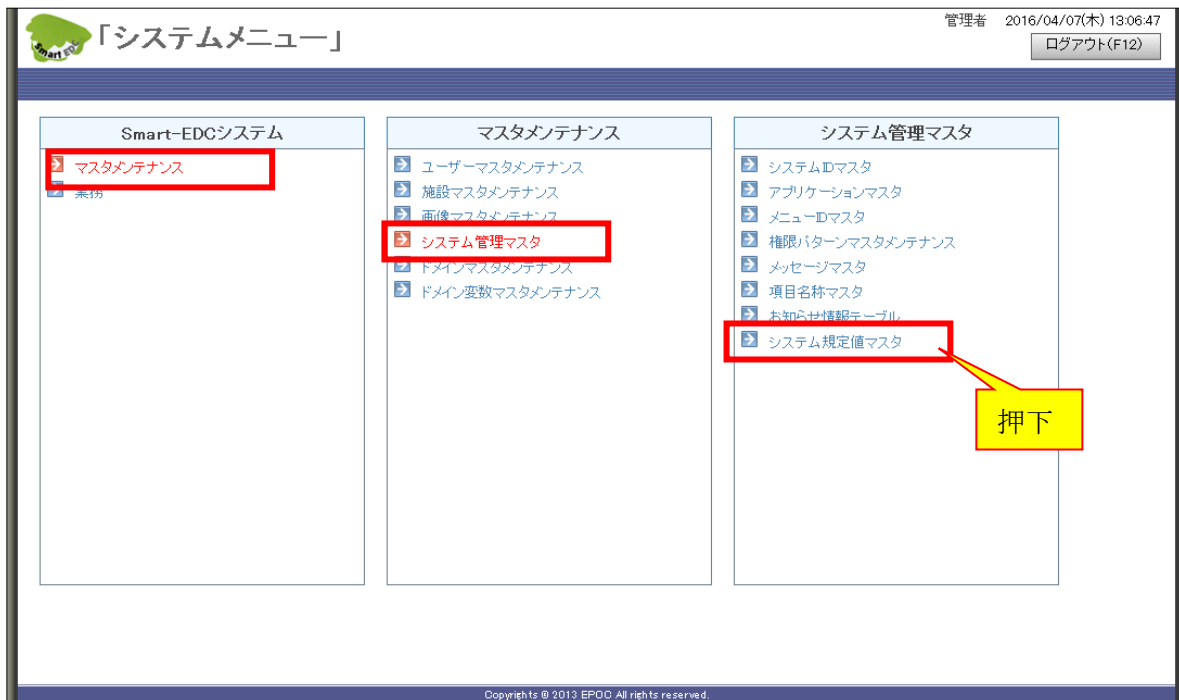
※Web アプリケーションより上記ディレクトリ内にディレクトリ／ファイル作成が行われますので
書き込み権限・実行権限を与えるようにして下さい。

例：/home/smartedc ディレクトリに sedc_csv ディレクトリを作成し、アクセス権限を付与

```
[root@tedc_srv smartedc]# cd /home/smartedc
[root@tedc_srv smartedc]# mkdir sedc_csv
[root@tedc_srv smartedc]# chmod 777 sedc_csv
```

- (2) SmartEDC 管理者機能を起動し、

「メインメニュー」－「マスタメンテナンス」－「システム規定値マスタ」を起動します。



- (3) 「規定値キーワード」に” 007” を入力し、TAB キーを押下します。

システム規定値マスタ

規定値キーワード ✓ 007

規定値 ✓

備考

削除フラグ ☒ 利用可能 ☐ 利用不可

作成日時
作成ユーザーID
作成プログラム名
更新日時
更新ユーザーID
更新プログラム名
更新カウント 0

実行 クリア 終了

“007”入力後、TAB 押下

- (4) データの出力先パスの設定データが表示されるので、
前述(1)で作成したディレクトリを入力し、「実行」ボタンを押下します。

システム規定値マスタ

規定値キーワード ✓ 007

規定値 ✓ /home/smartedc/sedc_csv

データの出力先パス:

備考

削除フラグ ☒ 利用可能 ☐ 利用不可

作成日時 2014/06/30 00:00:00
作成ユーザーID admin
作成プログラム名 system
更新日時 2014/06/30 00:00:00
更新ユーザーID admin
更新プログラム名 system
更新カウント 1

実行 クリア 終了

①CSV 格納ディレクトリを入力

②押下

- (5) 更新完了し「データが更新されました」のメッセージが表示されたら、「終了」ボタンを押下し、システム規定値マスタメンテを終了します。



システム規定値マスタ

■ データが更新されました

規定値キーワード ✓ 007

規定値 ✓ /home/smartedc/sedc_csv

データの出力先パス：

備考

削除フラグ ☒ 利用可能 ☐ 利用不可

作成日時 2014/06/30 00:00:00

作成ユーザーID admin

作成プログラム名 system

更新日時 2014/07/25 12:05:35

更新ユーザーID admin

更新プログラム名 system

更新カウント 2

実行 クリア 終了

押下

以上で、CSV 格納ディレクトリの設定は完了です。